

中村欣一郎市長の

山椒は小粒でも...



Vol.83

こんなところ、
来なけりゃよかつた!?



11月5日、東京でシエラ・サミット(シエアリಂಗエコノミクス協会主催)が開催され、18あるセクションのうちのひとつ「DXによる地域行政と地域社会の変革を考える」にパネリストとして登壇しました。

会場には立ち見を含めて約100人、オンラインでは約2000人のかたが視聴していたそうです。壇上にあがってまず思ったのは、「しまった(汗)安請け合いでするんじゃないか」との後悔です。私の隣には、立て板に水のごとくDXを語る東京都副知事にフィナン



私の隣が東京都副知事

しかし、私も負けじと地方行政がどのようにDXを推進し、効率的で住民に優しい行政サービスを提供できるかという点に関し、鳥羽オンライン診療の実践例や鳥羽商船と試行した「デジタルバマップ」の事例を紹介しました。

他にも、人口減少をへこんだソフトテニスボールに例えてお話ししました。ボールを掌の中で温めて、ポコッとふくらませた経験はありませんか。新しく空気を注入することは難しくても、ボールの中の空気を温める、つまり住民の活動を活発にすることで地域を活性化させる、そのための仕掛けにDXを活用するというのも

最も住民に近いところでサービスをしているのが私だったので、都会の人は興味津々。登壇する時、私の紹介が抜かされたので、「いつも飛ばされる鳥羽市です」と自己紹介したのも非常に受けて、つかみもバ

ツチリでした。

また、11月は全国大会などの季節ですので、あわせて各省庁、地元国会議員のもとへ、決議文を持参し予算要望に向かいました。

今、一番の要望は、伊勢志摩連絡道路の最後の仕上げの部分、白木インターの円滑な通行確保及び未整備区間の新規事業採択です。平成25年に松下⇄白木間が開通し、志摩市側も来年3月には恵利原⇄五知間が開通予定です。このままでは、白木の接続部がボトルネックとなり、さらなる渋滞が予測されるため、早期の事業化を要望するものです。この道路の果たす役割は、防災、観光を始め、あらゆる面で志摩半島の人流を促すこととなります。この日も3市1町の首長で訴えてきました。

もう一つは、今年本体制工した鳥羽河内ダムの着実な予算確保です。近年の雨の降り方を考えると、予定通りというより、一年でも早くという思いでいっぱいです。このダムが守るのは河内町だけのことでありませぬ。鳥羽港までの流域全体の流量減に寄与するものです。令和10年の完成を見込んでしっかりと要望を訴えました。

イコール パートナ シップ

Vol.154



小さなポケット

市民課人権・市民交流係

☎ 1126

今年の1月、東京の羽田空港で、日本航空と海上保安庁の航空機衝突事故が発生しました。日本航空機の乗客367名と乗員12名は、緊急脱出用のシユーターを使い、衝突から18分で全員が脱出しました。

事故が報道される中で、衣服のポケットに貴重品を入れ脱出できたケースが話題となりました。緊急脱出用シユーターを使用する際は、手荷物を持たず脱出する必要があり

ます。引っかけた首が絞まると危険なので、ポシェットやショルダーバッグなどを持ち出すことはできません。衣服のポケットの中に物がしっかりと納まっている必要があり、脱出中の物の落下や、シユーターを傷つけることがあつてはならないのです。

その際注目されたのが、女性用衣服のポケットに対する意見でした。デザインやシル

エットが崩れる、衣服の素材や構造上ポケットを付けにくいなどの理由から、女性用衣服のポケットがない、あつてもサイズが小さく深さが足りない、ポケットの見た目だけで収納ができない「フェイクポケット」がついている場合があるのです。

「女性用衣服にも大きなポケットがほしい」「男女ともに同じ機能の衣服がほしい」といった声を反映し、大きなポケットを持つスカートや、メンズと同素材を使用し機能性を維持した衣服が登場しています。

日常の中で「普通はこうだよね」「これが当たり前だから仕方ない」と思いがちなのを「こうだったらいいのにな」「こんな風にはできないのかな」と考えることが、固定観念を取り払った新しいアイデアやサービスが生まれるきっかけにつながっているのです。